

---

# 働くまち・稼げるまちとしての町田市

——商業・中小企業・農業・大学を、市民として小沢タケルが立体的に読み解く——

## 0.「寝に帰るまち」で終わるのか、「働いて稼げるまち」になれるのか

町田はよく、

- 「都心へのアクセスがよいベッドタウン」
- 「買い物が便利な街」

として語られます。

一方で、町田市は自らの長期ビジョンの中で、

単なるベッドタウンから脱却し、持続可能な都市を目指す必要があります。

とはっきり書いています。

人口・財政のレポートで見たとおり、町田は、

- 総人口：約43万人
- 高齢化率：今は27%台、2040年には35%前後へ
- 生産年齢人口は20%減、高齢者は20%増

という「構造的な変化」の中にあります。

住む人が減り、働き手も減る中で、  
どうやって「稼ぐ力」を維持・強化していくのか。

これは、単に企業の話ではなく、  
町田に暮らす一人ひとりの“働き方・生き方”に直結するテーマです。

このレポートでは、

- 町田市が公表している産業構造のデータや産業振興計画
- 農業振興計画や農の取り組み

- 地域経済現況調査・商工会議所の分析レポート

を読み込みながら、

「町田で働く・稼ぐ」とはどういうことか？  
これからどんな強みと課題があるのか？

を、市民として私・小沢タケルの視点で整理してみます。

---

## 1. 数字で見る「町田の産業構造」：商業と医療福祉が二本柱

### 1-1 事業所数・従業者数の全体像

町田市の「産業構造の概要」ページによると、  
2021年時点の町田市の事業所数・従業者数は次の通りです（民営）。

- 事業所数：**11,427**事業所
- 従業者数：**132,200**人

事業所数は2009年の12,666件から減少傾向にあり、  
従業者数も2016年以降はやや減少に転じています。

### 1-2 産業別の構成：卸売・小売と医療・福祉が突出

同じく市のデータによれば、産業別構成比はこうなっています。

- 事業所数の構成比（**2021**年）
  - 卸売業・小売業：**23.3%**（最も多い）
  - 医療・福祉：12.1%
  - 宿泊業・飲食サービス：10.5%
- 従業者数の構成比（**2021**年）
  - 卸売・小売業：**21.2%**（最多）
  - 医療・福祉：**20.1%**（ほぼ同レベル）
  - 宿泊業・飲食サービス：11.4%

2021年時点の産業振興計画の資料でも、

事業所数・従業者数から見た町田市の主たる産業は「卸売業・小売業」であり、次いで医療・福祉が2009年以降大きく伸びている。

と整理されています。

「商都町田」としての商業と、  
高齢化と医療ニーズ増加を背景にした医療・福祉が、  
町田の産業の二本柱になっている、というのが現状です。

---

## 2. 「商都町田」の今：駅前が強さと周辺の変化

### 2-1 駅前の商圈は今も「多摩エリア屈指」

町田駅周辺の商業は、

- 百貨店・大型専門店
- 東急ツインズ・マルイ・モディ
- 商店街・飲食店・サービス店舗
- 近年のグランベリーパーク(南町田)エリア

などを含め、多摩エリアでも有数の商圈を形成しています。

町田市が2023年に公表した「経済・産業の状況」の資料では、市内商業について次のような分析がなされています。

- ・「卸売業、小売業」の事業所数・従業者数は、2009年から2021年にかけて右肩下がり推移し、構成比も低下している。
- ・一方で、商店街においてお店の種類が増えることや、現地でしか買えない商品を展開することで、市内外からの来訪者が増加し、町田市での消費活動が活性化する可能性も示されている。

つまり、

- 事業所数・従業者数としての「商業ボリューム」は減少気味
- しかし、「行きたくなる理由」を増やす余地はまだある

という状況です。

### 2-2 インターネット通販・コロナの影響

同じ資料では、

- ネット通販の普及
- 新型コロナウイルス感染症の影響

によって、  
宿泊業・飲食サービス業や一部の小売業は事業所数・従業者数とも減少していると分析されています。

「駅前に店があるだけでは、人は来てくれない」  
という前提が、ますます強くなっているということです。

---

### 3. 町田市産業振興計画19-28

「立ち上げる」「拡げる」「つなぐ」の3つのチャレンジ

#### 3-1 計画の将来像:「ビジネスに、働く人に、心地よいまち」

町田市は2019年度～2028年度の10年間の戦略として、  
\*\*「町田市産業振興計画19-28」\*\*を策定しています。

この計画は、  
＜ビジネスに、働く人に、心地よいまち＞を将来像に掲げ、  
次の4つの柱を打ち出しています。

1. 「立ち上げる」チャレンジ
2. 「拡げる」チャレンジ
3. 「つなぐ」チャレンジ
4. ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり

#### 3-2 「立ち上げる」＝町田は「起業しやすいまち」を目指している

計画の説明では、こう書かれています。

町田市は、市内での開業率が高く、市内外の多くの方から、起業・創業の地として選ばれています。  
「いきなり都心で起業するのはリスクが大きいので、まずは小さく始めたい」といったニーズに応えられるまちであることが、起業・創業の第一歩目として選ばれる理由のひとつです。

そして、

- 起業・創業の実現（創業支援、相談窓口）
- 起業後の事業拡大（販路開拓・資金繰り支援）

など、「立ち上げるチャレンジ」を切れ目なく支援することを掲げています。

具体的な支援機関として、

- 町田商工会議所
- 町田新産業創造センター（ビジネスインキュベーション施設）
- 金融機関
- 大学・教育機関

などが連携する推進体制が明示されています。

「ベッドタウンの一角」ではなく、  
「まずはここで起業してみよう」と思ってもらえる都市を目指している、ということです。

---

## 4. 中小企業・雇用の現状：減る事業所、厳しい人手不足

### 4-1 事業所数は減少傾向

産業振興計画の資料集を見ると、  
町田市の事業所数（民営）は次のように推移しています。

- 2009年：12,666事業所
- 2012年：11,985事業所
- 2014年：12,476事業所（一時回復）
- 2016年：12,106事業所
- 2021年：11,427事業所

→ 全体としては、**2014年**をピークに減少傾向。

従業者数も、2016年までは増加していましたが、  
2016～2021年の間は減少に転じています。

## 4-2 地域経済現況調査：売上・人手・ITの課題

2024年度「町田市地域経済現況調査報告書」の概要では、  
市内中小事業者への調査を通じて、次のような点が挙げられています。

- 売上とコスト：  
コロナ禍からの回復傾向はあるが、原材料費・光熱費等の高騰が利益を圧迫
- 人材過不足：  
ほとんどの業種で「人手不足」を感じている事業者が多い
- ITツール活用：  
一部ではDXが進む一方で、導入が進んでいない中小企業も少なくない

町田商工会議所の「地域経済分析レポート」でも、

- 生産年齢人口の減少
- 高齢化率が多摩26市の中でも高い部類であること

が指摘されており、

「人手不足」と「デジタル対応」の課題は、  
町田でも全国と同じように、いやそれ以上に重くのしかかっている。

という現実が見えてきます。

---

## 5. 農業・農のある風景：町田の「もう一つの産業」

### 5-1 第4次町田市農業振興計画：都市農業をどう位置づけるか

町田市は、2017～2026年度を対象とする

\*\*「第4次町田市農業振興計画」\*\*を策定し、2021年度に中間見直し(改訂版)を行っています。

計画の基本理念は、

「都市農業としての多様な役割を果たす町田の農業を未来につなぐ」

というもので、

主な柱は以下のように整理されています。

- 担い手育成・経営支援
- 地産地消の推進
- 農地保全（農業振興地域・生産緑地等）
- 市民と農のふれあい（農業体験・直売所・観光農園 等）

## 5-2 農地の価値：食だけでなく「景観」と「ブランド」

東京都の「農の風景育成地区」の資料を見ると、  
町田市の生産緑地は約189ha、指定件数は952件とされています。

ここでは、

- 「住まいの身近なところに農地が点在する良好な環境」
- 「都市にあるべき農地として保全・活用を推進」

と明記され、  
農を軸とした官民連携「まちだベジハブ」などの取り組みも紹介されています。

町田の農業は、  
「食を供給する産業」であると同時に、  
「都市の中に農と緑がある価値」「ブランド」を支える役割も持っている。

下小山田・図師・小野路エリアの畑や里山は、  
町田の“顔つき”を決める重要な資産だと、改めて感じます。

## 6. 大学・教育機関・人材：ポテンシャルとギャップ

町田市内と周辺には、

- 桜美林大学
- 玉川大学
- 和光大学
- 法政大学多摩キャンパス（隣接エリア）
- 専門学校・看護学校 など

多くの大学・専門学校があります。

産業振興計画や地域経済分析レポートでも、  
「大学との連携」「産学連携」「人材確保」が、今後の重要テーマとして挙げられています。

「大学のあるまち」でありながら、  
「卒業後は都心や他県で働く」パターンが多いのが現状。

人口・財政のレポートで見たように、  
生産年齢人口は今後も減少していきます。

→「町田で学んだ人が、町田で働き続けるルート」をいくつ増やせるか。  
ここは、産業政策・雇用政策としても大きな課題だと感じています。

---

## 7. 市民として見える「町田の稼ぐ力」の4つの論点

ここまでの資料と、自分の実感を重ねて、  
私・小沢タケルなりに「町田の働く・稼ぐ」を4つの論点に整理してみます。

### 7-1 「商都町田」の再定義が必要になっている

- 卸売・小売は今も事業所数・従業者数とも最大だが、構成比は下がっている
- ネット通販・コロナ禍の影響で、駅前商業も状況が変わってきた

→「商都町田＝店舗数の多さ」ではなく、「ここでしか買えない・体験できない価値」で勝負するフェーズに入っている。

### 7-2 医療・福祉・教育という「人を支える産業」の伸びをどう活かすか

- 産業構造では、医療・福祉の構成比が大きく伸びている
- 教育・学習支援業も特化係数が高く、人材・ノウハウが集まっている

→ 高齢社会・子育て・教育を支える産業が、町田の「稼ぐ力」の一部になっている。  
この分野で、働きやすさ・キャリアパスをどう整えていくかがポイント。

### 7-3 中小企業・小規模事業者と「チャレンジ」の両方を支える必要

- 既存の中小企業は、人手不足・原材料高・IT対応のプレッシャーを受けている
- 一方で、町田は開業率が高く、「起業の一步目を踏み出しやすいまち」として位置づけられている

→「今ある事業を守る」と「新しいチャレンジを増やす」を両立させる政策が必要。  
片方だけでは、町田の経済の新陳代謝が止まってしまう。

## 7-4 農業・里山を「稼ぐ力」と「都市の魅力」の両方として位置づけるか

- 第4次農業振興計画や農の風景育成地区で、都市農業と緑の保全を打ち出している
- 住宅・土地利用レポートで触れたように、農地は住宅開発の“余地”と見られがちだが、同時に町田らしさの源でもある

→「農＝開発の邪魔」ではなく、「農＝町田のブランド・観光・教育・健康」として稼ぐ力に変えていけるかどうか。

---

## 8. 市民としてできること:3つの視点

最後に、制度や計画だけではなく、  
「町田で働く一人の市民」として、私が大事だと思う視点を3つだけ書きます。

### 8-1 自分の仕事が「どの産業のどの位置にいるか」を知る

- 自分の会社・仕事が「商業」「医療・福祉」「教育」「製造」「IT」「農業」など、町田の産業構造の中でどこに位置しているかを一度意識してみる。
- その産業の構成比・伸び・減りを、市の資料や商工会議所のレポートで確認してみる。

→「町田の産業構造」の中で、自分のキャリアをどう組むかが見えてくる。

### 8-2 起業・副業・複業を「選択肢」として頭の片隅に置く

- 産業振興計画19-28が、起業・創業支援を明確に掲げていることを知っておく。
- 町田新産業創造センターや商工会議所の相談窓口が、単なる“企業向け”ではなく、「初めてのチャレンジ」にも開かれていることを確認しておく。

→ いきなり仕事を辞めなくても、「町田で何かを立ち上げる」ルートがあると分かるだけで、働き方の自由度は変わる。

### 8-3 「農」と「まち」を分けて考えない

- 直売所・観光農園・農業体験・ふるさと納税の返礼品など、町田の農に触れる機会を意識的に持つてみる。

- 「住宅か農地か」ではなく、「農地があることで町田の暮らし・仕事にどんな可能性があるか」を考えてみる。

→ 町田の“稼ぐ力”を、駅前の商業や都心への通勤だけでなく、農・観光・地産地消も含めて立体的に見るきっかけになる。

---

## 9. おわりに:

「このまちは、寝に帰るだけのベッドタウンで終わらせたくない」

町田市は、

- 卸売・小売を軸とした「商都」としての顔
- 医療・福祉・教育が伸びる「人を支える産業」の顔
- 多摩丘陵と農・里山が残る「都市農業」の顔

を同時に持つ、なかなか珍しいまちです。

一方で、

- 事業所数・従業者数の減少
- 人手不足とDXの遅れ
- 若い人材の流出
- 農地・緑地をめぐる開発とのバランス

という課題も、はっきりと見えてきています。

このレポートは、

町田市の産業構造や産業振興計画、農業振興計画、地域経済調査などの公式資料を読み込み、

「働くまち・稼げるまちとしての町田」を、  
市民としてどう見ていくか

を整理した小沢タケルの市民レポートです。

「町田はベッドタウンだから」とあきらめるのではなく、  
\*\*「どんな仕事と産業の組み合わせで、町田らしく稼いでいくのか」\*\*を、  
一緒に考えるための材料になればと思っています。

町田に生まれ、町田で育ち、町田で暮らす一人の市民として、  
小沢タケルはこれからも、

- 町田の産業・商業・農業の現場を歩き
- 事業者・働く人の声を聞き
- 市の計画とデータを読み解きながら

「小沢タケルの市民レポート」として、  
働くまち・稼げるまちとしての町田の可能性と課題を、一つずつ言葉にしていきたい。

この文章が、

「この人は、町田の“稼ぐ力”をちゃんと勉強して分析しているな」

と感じてもらえるきっかけになり、  
あなた自身が「町田でどう働き、どう稼ぎ、どう暮らしていくか」を考えるヒントになれば、うれしく  
思います。

